

横浜でミーティング開催目前

## 初めての人のIETF参加ガイド

text: 宇夫陽次郎 (I/I技術研究所) / ももいやすな (I/I)  
illustr: 村上トオル

### 基礎編：最低限知っておきたい知識

今夏、54回目のIETFミーティングが7月14日から19日までの日程で横浜で開催される。日本で開催される最初のIETFミーティングでかつアジア圏初でもある。

インターネットに触れていると、どこかでIETFやRFCという言葉聞いたことがある読者も多いに違いない。IETF関連のメーリングリストなどを購読している、さらに深くかかわっている読者もいるだろう。だが、実際のIETFのミーティングに参加したことがある人はずっと少ないはずだ。

「IETFの活動には興味があるけど……」

の次に「海外にわざわざ行くには……」なんてしり込みしていた人へ 今回は横浜だ。こんなチャンスを見逃すのはもったいない。ぜひ参加して、より深くインターネットの世界にかかわ

るきっかけにしよう。

ここでは、IETF自体の簡単な紹介と、横浜でのミーティングで役に立つ(かもしれない)ヒントを贈ろう。



The 54th IETF 公式ページ。今回はホストをWIDEプロジェクトが務め、スポンサーを富士通が務める。  
[www.e-side.co.jp/ietf54/](http://www.e-side.co.jp/ietf54/)

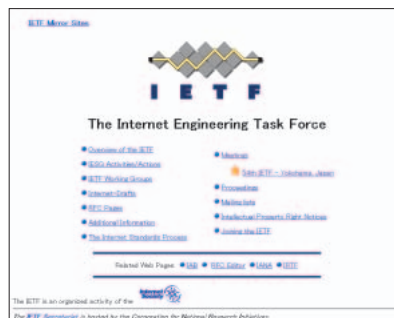


### そもそもIETFとはなにか？

IETFはインターネットで使用するさまざまな技術について技術的な議論を行い、その標準仕様を策定している団体である。「仕様策定団体」と聞くと仰々しい組織を思い浮かべてしまうかもしれないが、そんなことはない。IETFはオープンな組織だ。それぞれが興味に応じて参加できるし、その際に組織的な裏付けは必要ない。IETFはインターネットを育ててきた。その精神をもっとよく表しているのが、MITのデビッド・クラーク氏の言葉だ。

“We reject kings, presidents and voting; we believe in rough consensus and running code 〓 多数決はしない。特権をもつ者もいない。我々が信じているのは、動いているコードとそれを支える合意なんだ”

仕様策定におけるこのようなIETFのシステムと、実用に堪えることを重んじる風土から産み出された製品やプログラムは今もインターネットを強固に支え、発展させている。



IETFのウェブサイト。RFCと呼ばれるドキュメント群はここで検索して読める。  
[www.ietf.org](http://www.ietf.org)



## Q2.

### IETFはどのように始まったのだろうか？

IETFの歴史を短くまとめることはできないので、ちょっとしたトピックから雰囲気をつかんでもらうことにしよう。IETFが公開している文書(RFC2555)から1節引用する。

「1968年夏、この来るべきネットワークについて論じるために、UCLA、SRI、カリフォルニア州立大サンタバーバラ校、ユタ大学から一握りの大学院生と教員が集まった。(中略)この最初の会合でそれぞれの研究所での会議の予定が決められた。これこそが、今日も毎年3回ずつ各地で開催されている会合の原型である。」

RFC2555にはこんな記述もある。

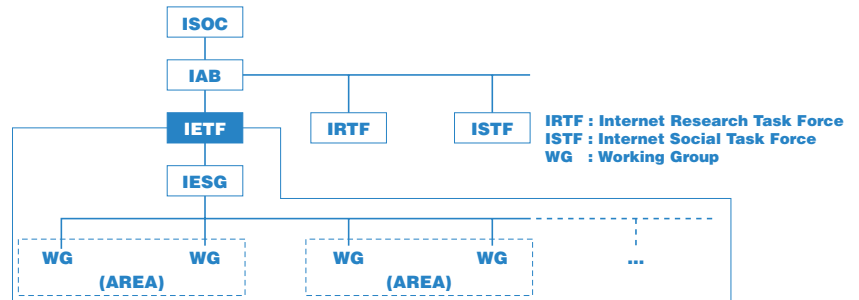
「現在の大きくなったIETFと比べれば、当時のネットワーク分科会は小さくて単調であったが、当時の私たちには巨大で制御するのが精一杯に感じられたものだ。けれど、まったく変わっていない伝統がある。分科会の会議への参加がまったく自由だということだ」

今回の横浜でのIETFミーティングは、こんな『インターネットの歴史』を肌で感じる貴重な機会だ。

## Q3.

### IETFの組織構成はどうなっているか？

インターネット組織の関係



IETFがインターネットの仕様を策定してきたといっても、膨大な要素で構成されている「インターネットの仕様」をすぐにはイメージできないはずだ。IETFの組織構成を簡単に紹介しておこう。

・Working Group(分科会)

IETFの議論の単位。必要に応じて結成され、目的の達成とともに解散する。それぞれメーリングリストが作成されており、情報のやり取り、議論などが行われる。

・Area(エリア)

IETFの守備範囲を分割したもの。各分科会は対象とする技術分野に応じてエリアに所属している。

・関連組織

IETFには上位組織としてISOC(Internet Society)、IAB(Internet Architecture Board)、IESG(Internet Engineering Steering Group)などがある。分科会の詳しい情報はRFC2418にまとめられているので参照してほしい。

## Q4.

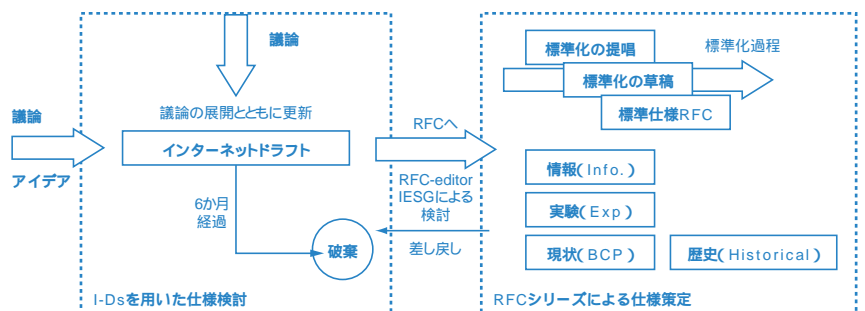
### インターネット標準とは何か？RFCとは何か？

「インターネット標準」はいきなりできるわけではない。IETFでは標準仕様を策定する手順を決めている。その要素となるのがインターネットドラフト(I-D)とRFCだ。各自の考え(新しいものや既存の仕様の変更)はI-Dという文書にまとめられ、公開される。I-Dの内容を元に分科会などで議論や検討が行われ、その内容を反映したI-Dを公開することで世界中のあちこちにいる人たちと意見交換をしていくのだ。I-Dは議論用の文書なので常に更新されていなければならない(6か月で削除される)

一方、RFCは永続的な文書シリーズだ。議論の結果「永続的に公開する意義」が認められるとRFC化され、インターネットの仕様の一部となる。注意したいのは「RFC = 標準仕様」ではないとい

うことだ。「標準であること = 義務」でもない。この辺は難しいのでIETFへの参加を通じて理解していかなければならないことだといえるだろう。

インターネット技術の標準化の流れ



## 実践編：ミーティングで役立つかもしれないヒント

### 1. メーリングリストに参加して予習をしておこう

IETFの活動は今回のようなミーティングだけじゃない。メーリングリストを通じた継続的な情報交換や議論、そして各自の意見表明であるI-Dの公開などがとても重要な要素になっている。ミーティングに「イベント気分」で参加するのではなく、事前に興味のある分野のメーリングリストに加入して現在の論点を把握しておこう。ミーティング前には「ミーティングで何を話すか？」なんて話題も多いので要チェックだ。



### 2. 公用語は英語だが、事前の予習さえしていればなんとかなる！？

「アジア圏で初」なんてくだりですでに気が付いていると思うが、IETFの活動では英語が用いられている。RFCやI-Dは英語だし、メーリングリストの議論も英語だ。もちろんミーティングの場でも英語で議論される。ここで「英語が苦手だから」としり込みしないでほしい。メーリングリストでの議論やI-Dの内容は時間をかければ理解できるし、事前に理解していれば実際のミーティングでも何とかなる。しっかり予習しておくことが大事だ。



#### Information

#### 第54回 IETF ミーティング 参加申し込み / 開催情報

期間：2002年7月14日 - 2002年7月19日

場所：パシフィック横浜

参加費：一般600米ドル(早期申し込み6月末まで450米ドル) 学生150米ドル(事前申し込みの場合)

このほかのIETFミーティングに関する詳細な案内やプログラムなどは下記のウェブサイトから入手できる。

 [www.ietf.org/meetings/IETF-54.html](http://www.ietf.org/meetings/IETF-54.html)



### 3. プログラムはウェブで公開されているので時間・場所などを確認しておく

実際に横浜の会場についてまずやることは受付に行くことだ。事前に申し込んであれば名前を言えばいいし、そうでなければその場で参加登録しよう。名札を首からかけてIETFに溶け込んでしまおう。ミーティングは各分科会ごとに開催される(BoFという)、プログラムで日程と場所を確認して、早めに部屋に入っておこう。初心者ほど資料がちゃんと見えて声が聞こえるところにいたほうがいい。ビデオによる撮影は禁止されているので絶対にしないように。



### 4. スーツはいらない。Tシャツにジーンズにサンダル履きが正装だ

国際会議だからといってスーツで参加すると、会場で浮くことになる。The Tao of IETF(RFC 3160)にも「みんなTシャツにジーンズ、そしてサンダル履き」と書いてある。ラフな格好で参加しよう。廊下やロビーの隅に座り込んで、ノートPCを使っている人をたくさん見かけるだろう。会場は電源も無線LANも完備している。あなたもノートPC片手にみんなの仲間入りしよう。



ここまで読んできて「やっぱりIETFミーティングに行こう」と決心した人がいるに違いない。まだ迷っている人も、せっかくの日本での開催なのだから思いきって参加してみよう。近くでやるということで、少なくとも「地理的な障壁」はクリアされている。この利点を活かして、IETFの雰囲気を自分のものにできれば、インターネットにより深くかわるためのパスポートを手にいれたようなものだ。

でも、初めて参加する「まだちょっと不安もある」という人のために簡単なガイドを提供しよう。事前の準備、当日の雰囲気、そして実は重要な「ドレスコード」、この辺りを中心にまとめてみた。

ただ、ここで説明したIETFのスタイルはほんの一部でしかない。さらに情報を得たいのであれば『RFC3160 The Tao of IETF: 初心者向けガイド』という文書が詳しい。紹介しきれなかったいろいろなトピックが満載だ。ぜひチェックしておこう。

それから実際の参加手続きやミーティングの開催についても紹介しておこう。6月末までにIETFミーティングの参加申し込みを済ませば、参加費が2割程度、早期申し込み割引として安くなる。いまずぐ左ページ下の案内を読んで申し込んでほしい。

最後に細かなトピックを付記しておこう。

- ・初日(7月14日)の昼から初参加者向けの説明会がある。初めての人はぜひ参加しよう。
- ・初日の夕方にはレセプションパーティーが開催される。立食形式のパーティーなので、いろいろな人と交流するチャンスだ。気後れせずに積極的に参加しよう。
- ・毎日朝食とおやつがでる。朝はちゃんと起きて会場に行っておこう。
- ・7月16日にIETF参加者の交流を目的としたソーシャルイベントがある。別途申し込みが必要なのでチェックしておこう。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)